

このコーナーでは、皆さんからの「お便り」や「写真」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆お便りは、字数 200 文字以内。写真は、1 枚につき 50 文字以内。(文章は、必要に応じて添削する場合があります)
- ◆住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ペンネーム(記入がない場合イニシャルで掲載します)を記入の上、伊佐PR課までご投稿ください。
- ◆投稿は、はがき・封書・メールまたは直接伊佐PR課(大口ふれあいセンター2階)へ
- ◆締切は、毎月10日
※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
※紙面の都合上、掲載できないこともあります。

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
伊佐市大口里2845番地2
伊佐PR課
「和みのひろば」係
☎④4113
✉ koho@city.isa.lg.jp



11月23日に催される湯之尾神社の神舞は、今年は、伝承されている舞26番全てが奉納される。素朴でありながら豪華絢爛な舞いは、見る人の心を惹きつけ、笛と太鼓の音色で郷愁を誘われる。また、午前中に行われる「浜下り」は、神輿に乗った湯之尾神社の御神体と、子供神輿の人達100余り

1964年の東京オリンピックから50年。アテネで採火された聖火は、ここ鹿児島にもやってきました。聖火リレーで鹿児島県53番目の走者として、当時、伊佐農林高校陸上部キャプテンだった私は阿久根市の国道3号線の約2kmを走りました。沿道の方の応援、顔に当たる聖火の熱風、当時まだ舗装されていない道路、聖火のトーチが重かったこと懐かしく思い出します。
2020年再び出会えるあの感動、今からとても楽しみです。
(曾木 O・H 60代)



全長4km 針持小谷の彼岸花。近隣の笠松・馬場自治会と取組み見事に咲き誇りました。田の神さあもご満悦。
(針持 K・M 80代)

O・Hさん、日本開催のオリンピックを二度経験できるなんて羨ましい。同年、鹿児島国体もありますし、賑やかな年になりそうですね。

の行列の中を獅駒4匹が駆け回り、昔の村の鎮守の森の神様のお祭りを思い出させる。「是非、ミイケきてくいやんせ！」
(湯之尾 案内人猿田彦 60代)



人口のうごき
(住民基本台帳から)

H26.10.1 現在 (前月比)

総人口	28,301 人	(- 15)
男	13,099 人	(- 6)
女	15,202 人	(- 9)
世帯数	14,065 世帯	(- 20)

これまで農政課からの掲載記事を重箱の隅つつくように添削しておりましたが、奥が深い。これからは農政課の皆に笑顔で教える請うことにします。この問題に小学生がチャレンジしているとは、教える側の先生方も相当な予習をして臨まれていることでしょう。大人も感心できる情報満載「ふるさと検定」。今後も広報紙で紹介していきます。



編集後記

広報担当になって5年、市内外に情報発信するためにも「伊佐」の事を知って当然な私。小学生が挑戦している「伊佐ふるさと検定」も初級編では優しいすぎるかなと中級編を掲載してみました。「コレわかる、コレも当然...えりつと」中盤から雲行きが怪しくなってきた。観光・歴史は勉強したつもりでも、踏み込んでいなかった分野があった!「農畜産業」。

広報紙に掲載した内容は記憶にあってもココまでは知らなかった。「何度のお湯でも飲み消費?」。農家さんには当たり前でしょうがお恥ずかしい、白ご飯は大好きでも種もみには興味がなかった。